

大学第1外科)

金井 孝夫・上芝 秀博・西川 俊郎¹・

笠島 武¹・若尾 義人²・小山 生子

現在、拘束型心筋症の報告は少なく、その病態・病像の詳細は不明な点が少ない。今回ネコの拘束型心筋症について検索する機会が得られ、疾患モデルとしての可能性について検討したので報告する。症例：10歳、体重5.5kg、雑種オス。主訴は後駆麻痺、嘔吐。初診時では股動脈触知不能、四肢冷感が認められ大動脈血栓症を疑った。心電図は異常なく、胸写では心陰影の拡大、超音波像は左房拡張・左室壁と中隔の肥厚・左室内膜のエコーレベルの増強、大動脈造影では腹部大動脈遠位部以下の閉塞を認めた。心内圧は左室圧114mmHg、大動脈圧は115/85mmHgであり、左室拡張末期圧は21mmHgと著明な高値を示した。直ちに血栓摘出を行うも回復せず死亡。剖検では左室壁・中隔の肥大と左室内膜肥厚による左室内腔の狭小化を認め、組織所見では左室内膜の膠原線維の増生による著明な肥厚がみられた。以上ヒトの拘束型心筋症と酷似しておりモデルとして有用性が考えられた。

14. 心筋生検標本における心房性ナトリウム利尿ペプチドの免疫組織学的検討—心内膜線維弾性症を中心に—

(第2病理)

西川 俊郎・安藤 明子・武雄 康悦・

長谷川かをり・笠島 武

(第2内科)

成瀬 光栄・成瀬 清子・出村 博

(心研)中沢 誠・門間 和夫

心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の心室筋における分布はまだ不明な点が多い。われわれは前回、心内膜線維弾性症(EFE)の剖検心標本を用いて、ANPの分布を免疫組織学的に検索したが、今回はEFEの左室内膜心筋生検標本について検討し、ANPの分布量と心機能や心室容積との関連について検討したので報告する。

EFE症例の左室心筋生検標本を、抗ヒトANP抗体を用いて酵素抗体法(ABC法)により免疫組織染色を行うと、9/13例(69%)にANP陽性細胞を認めた。対照として弁膜疾患の左室生検標本(n=6)を同様に調べたが、陽性細胞の認められた例はなかった。陽性細胞の全心筋細胞に対する比(占有率)と左室駆出率、左室拡張終期容積、容積・心筋重量比を比較すると、いずれも相関を示した(|r|=0.727~0.735)。

EFEの左室心筋におけるANP陽性細胞は心機能低下の著しい例に多く認められ、その発現は重症心不全と関連があると考えられた。

15. 原発性両側副腎皮質病変によるCushing症候群：3垂型〔原発性副腎皮質小結節性異形成(PAMD)、ACTH非依存性大結節性過形成(AiMaH)、両側副腎皮質腺腫(BAA)]の比較

(病院病理科)相羽 元彦・河上 牧夫

PAMD 2例、AiMaH 4例、BAA 2例を形態学的に比較した。PAMDは著しい滑面小胞体とlysosomal dense bodyの発達、3 β -hydroxysteroid脱水素酵素(3 β HSD)活性を伴う細胞肥大が特徴で、単位面積当たり、さらには両側副腎当りの皮質細胞数の増加は他二者に比べ小さかった。AiMaHは滑面小胞体の発達は良好ではなく、3 β HSDの活性も低い小型の細胞の数の著しい増加が特徴的であった。BAAは細胞内小器官の発達、細胞質量、細胞数の増加の程度共に、PAMDとAiMaHの中間に位置していた。PAMDの若年発症と比較的小さな副腎という特徴は、代謝回転の早い細胞内小器官の発達が機能亢進の原因であることにより説明され、AiMaHの後年発症と巨大な副腎という特徴は、全身諸臓器細胞の中でも細胞増殖の遅い副腎皮質細胞の数の著しい増加が機能亢進を来していることと対応する。BAAは両者の中間的な存在であり、PAMD、AiMaHといういずれも特殊な疾患を解明する上で、良い対照となるものと思われる。

16. 糖尿病膵組織内のsuperoxide dismutase(SODs)免疫局在の変化

(第1病理)付 強・金田 良夫・

豊田 智里・小林 槇雄

Superoxide dismutaseは、oxygen radicalsの一つであるsuperoxide radicalを消去する酵素であり、近年、糖尿病におけるラ氏島の β 細胞障害との関連が注目されている。われわれは本学病理学教室の剖検例について、免疫化学組織学的にPAP法を用いて、胎児、新生児、幼児、成人および糖尿病例の膵臓、特にラ氏島のSODsの免疫局在を観察し、この酵素の局在変動と糖尿病の発症との関連に関して検討した。

その結果は、(1)ラ氏島においてはCuZnSODが、強く染色されたが、MnSODは大部分の例で、染色されなかった。(2)胎児22週から既に微弱陽性で、その後、陽性構造は増強する傾向にあり、本研究の6歳以後は強く染色され、年齢による変化はなかった。(3)糖尿病(IDDMとNIDDM)ラ氏島のCuZnSODは、非糖